

# 「人に真似される商品をつくれ」 早川徳次の不屈と感恩の精神に学ぶ！

## ●人生で初めて知った ブランド

子どもの頃、強烈に心に刻まれたブランドに「シャープペン」があります。子供心に、「このような便利なものを発明した人は凄い！」と思ったもの

です。後年、発明した人を早川徳次と知りましたが、その不屈の精神には驚嘆しました。子ども時代に苦勞したことをバネに成功した方はたかない「感恩」にも深く感銘を受けたものです。

受けます。小学校を2年で辞めさせられ、朝から深夜までマッチ箱張りの内職をさせられます。このどん底は、徳次を不憫に思った近所の盲目の女性・井上せいいが、金属細工業の店に丁稚奉公を繋いでくれたことで抜け出します。

31歳で再起を誓い、まだ日本でラジオ放送が始まっていないにも関わらず、アメリカ製のラジオを買って分解、構造を研究、国産第一号の開発に成功します。翌年のラジオ放送開始と同時に発売されたラジオは、外国産の半額ということで爆発的に売れます。このラジオから「シャープ」というブランド名を冠します。後に徳次は天災時のことを振り返り、「事業が順調に進んでいったとすると、おそらく私はシャープペンシル製造に生涯をかけて金属文具界で終始し、いまのように電気器具メーカーとして大阪に住むこともなかったと思われる。運命というものは全く予想を許さない」と語っています。

## ●三度のどん底を 超える！

人生に、大きな苦難が三度はやってくると言われていますが、早川徳次のものはまた特別です。一つ目は、まますから早川家に生まれた徳次ですが、一歳で出野家に養子に出ます。その2年後に養母が急逝、その後妻から強烈ないじめを

## ●天災による不運から 新規事業の道を拓く！

二つ目は、天災により全てを奪われたときです。金属細工業の店の丁稚奉公を勤め上げ、結婚し、実の兄弟と再会し、そのプロセスで、ベルトに穴を空けずに使えるバックル「徳尾錠」、更には後年に「シャープペンシル」と名付ける「早川式繰出鉛筆」を開発し、従業員も2000名を超え、実に順風満帆でした。そこに関東大震災が襲い、妻と子ども二人の命が奪われ、事業も行き詰っていきます。大阪の企業に従業員を引き受けてもらい、徳次自身も大阪に移住します。

## ●日本のエンジンの 「人に真似される商品をつくれ」 の精神

三つ目の苦難は、太平洋戦争終結後にやってきます。物不足とGHQ



シャープ創業者 早川徳次氏

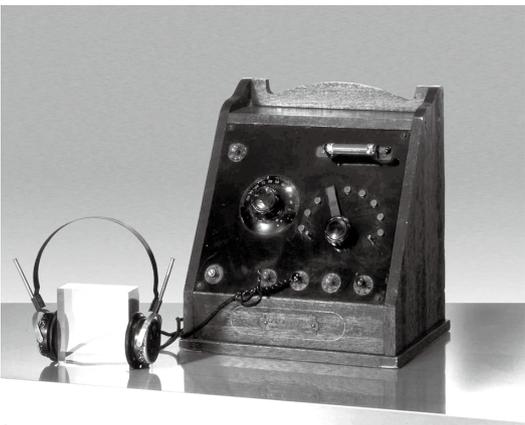


早川式線出鉛筆



ベルトのバックル「徳尾錠」

人員整理しな  
い」と誓い、テ  
レビの国産第一  
号の開発、国産  
第一号電子レン  
ジの発売、世界  
初のオールトラ  
ンジスタ方式の



国産第1号鋳石ラジオ

幼少時から苦勞を重ねたためか、  
昭 and 19年、51歳のときに失明軍人が  
働く「早川電機分工場」を開設、終  
戦時に一時解散しますが、昭和21年  
に再開、昭和25年には「合資会社特  
選金属工場（現在のシャープ特選工業

### ●「恩を返すのが奉仕」

昭和24年、56歳のときに、大阪府  
身体障がい者雇用促進協議会の会長  
に就任し、「欠陥能力より、残存能力  
を生かそう」、「恩を返すのが奉仕」  
と語っています。昭和29年、61歳のと  
きには、共働き従業員の子どもや近  
隣住民の身体障がい者の子どもを預  
かるための「育徳園保育所」を私財

株式会社」を設立します。視覚障が  
い者自らが独立採算制で事業を経営  
する特選金属工場は広く世間に知ら  
れ、皇室や世界的富豪で慈善活動家  
のロックフェラーなどが訪問していま  
す。  
8歳のとき、まますからこのいじめ  
から救い出してくれた盲目の女性・  
井上せいのことを後年、「出発の日  
は、盲人のおせいさんが手を引いて  
奉公先まで連れて行ってくれまし  
た。おせいさんの手のひらのぬくも  
りは、今なお、この私の手の中に残っ  
ています」と語っています。私たちがも  
親や恩人から受けた「ぬくもりの温  
かさ」を終生忘れたくないものです。  
自分のことで恐縮ですが、臥龍も母  
親から受けた感恩を、日本や世界の  
子ども達に恩送りしています。

### ●終生忘れなかった 「手のひらのぬくもり」

によるドッジライン（単一為替レートの  
設定、各種補給金制度の撤廃等）  
により景気が悪化、早川電機も倒産  
の危機に追い込まれ、追加融資の条  
件として銀行から人員整理を迫られ  
ます。徳次は「人員を解雇するくら  
いなら会社を解散するほうがいい」  
と全従業員に伝えます。意気に感じ  
た従業員の方から「会社を倒すな！」  
の声が上がり、労働組合が動いて自  
主退職を募り、結果、銀行からの融  
資が実現し、倒産の危機を脱します。  
徳次は「これを教訓として、二度と

を投じて設立。昭和37年、69歳のと  
きには、徳次の寄付金をもとに大阪  
市立早川福祉会館（東住吉区）が設立  
され、昭和44年、76歳のときには、徳  
次が建設資金を寄贈した大阪市立阿  
倍野青年センター（阿倍野区）が設立  
されています。企業としてのシャープ  
はその後、様々な状況を迎えていま  
すが、早川徳次のフロンティア精神や  
社会への恩送り精神は、永遠に語り  
継ぎたいものです。



**臥龍**（がりゅう：wolong ウォロン）こと  
**角田識之**（すみだのりゆき Sumida Noriyuki）

APRA（エープラ）議長 &  
一般社団法人「志授業」推進協議会・理事長  
「坂の上の雲」の故郷、愛媛県・松山市生まれ。23歳  
のときに「竜馬がゆく」を読み、「世界の海援隊」を創る  
ことを志す。人の幸福を主軸とする「人本主義思想」の  
素晴らしさを経営の場で実証推進する和僑（日本）と華僑（台湾・上海）合同  
の勉強会「APRA（エープラ）」を設立し、日本全国そしてアジア太平洋各国  
を東奔西走中。最近では、一般社団法人「志授業」推進協議会の理事長として、  
小中学生の大志確立を支援する「志授業」の普及、民族肯定観を上げるための  
「歴史・偉人」の講話にも注力中。詳細は「志授業」でご検索ください。